

日本環境教育学会第 06-3 回運営委員会議事要録

日時：2006 年 8 月 19 日 13：00～14：10 於：酪農学園大学

出席者（敬称略・順不同）：小澤、朝岡、林、陸、小堀、飯尾、本庄、見上、福井、樋口、佐島、乾、西城戸、藤岡、植田、小栗、塩瀬、湊、戸田、矢野、小林

欠席者（敬称略・順不同）：山田、荻原、金田、木内

記録：櫃本、水谷

審議に入る前に、第 18 回大会実行委員会からの挨拶（小林実行委員長、矢野事務局次長（2007 年度大会担当、以下略））があった。小林実行委員長より、大会開催への意欲の表明、矢野事務局次長より、周辺地域への協力を呼びかけながら大会開催へ尽力するとの意思表示があった。

1. 第 06-2 回運営委員会議事録の確認について

本日の運営委員会の時間が限られているため、意見があれば、事務局へ。

<報告事項>

2. 2006 年度大会について（乾委員）

無事開会した。あと一日半、よろしく願いたい。

3. 退会者の確認

11 名（正会員 10 名、団体会員 1 件）を確認。

4. 共催・協力・後援・協賛等の依頼

1 件の後援承認を確認。

5. その他

特になし。

<協議事項>

6. 新入会員の承認

事前申込 6 名。8 月 18 日付申込 2 名。入会申込書を回覧後、承認。

7. 第 17 回総会の議題について（朝岡事務局長）

・挨拶

(1) 第 1 回研究奨励賞（2005 年度）の表彰

・議事開始

議長団の選出（前会場校：水山会員・現会場校：中原実行委員長）

書記は事務局幹事（櫃本、水谷）

(2) 第 1 号議案／2005 年度事業報告（案）

中身は議論したとおり

(3) 第 2 号議案／2006 年度事業計画（案）

前回の運営委員会で協議したものを載せた。追記したものとして、19 年度大会の開催予定を盛り込んだ。早めの周知が目的。

(4) 第 3 号議案／2005 年度決算（案）

監査を再度行い、正式に適正と認めていただいた。一箇所記載漏れがあった（収入部の国際会議の増減）。口頭で訂正する。

(5) 第 4 号議案／2006 年度予算（案）

予算案。運営委員会での提案とほぼ同じものを提案。

(6) 第 5 号議案／第 8 期選挙管理委員の選出

選挙管理委員に 5 名を推薦。内諾はもらっている。総会で推薦し、承認得られたら、5 名の委員でスケジュールや中身を決めてもらう。

(7) 第 6 号議案／関東支部の設置について

総会次第には参考資料として規約案を掲載。

(8) その他

議長団の開催後、小林第 18 回大会実行委員長に挨拶してもらうことを確認。

・選挙管理委員選出の経緯を説明。首都圏在住者。大学の教員だけでなく、学校の教諭、行政、NPO からも選出。

・定足数の確認。委任状も含めて定足数を満たしている。議決の方法は、特に規定がないため、議長団に願います。紛糾しなければ、拍手等で。

8. 第 2 回研究奨励賞の選考について

審査表を作成し、配布。第 7 回運営委員会（2006 年 4 月 11 日）での取り決めにより、これを一次選考とする。第二次（最終）選考委員を選出し、1～3 と順位をつけて推薦をする。藤岡委員、木内委員、陸委員 3 名で決める。

9. 2007年度大会について（別紙参照）

第1回実行委員会（7月22日）の報告。学会からは本庄委員、矢野事務局次長が出席。実行委員会はメンバーが増える予定。運営方針や問題点等を報告。

・問題点：学会員が少ない状況で行なうため、関西、九州（福岡県）からも協力を呼びかけたい。福岡県支部からも参加を検討。

・支援体制について。すでに10ヶ月切っているため、早急な立ち上げが必要。参加者が今のままだと例年より減る可能性がある。準備金が10万円では不足の可能性はある。学会事務局で便宜を図れる可能性があるかどうか、検討してほしい。鳥取環境大学は1000人規模の大学、できて6年目のため、学会のサポートが必要。

・参加者を増やす方法：参加者を増やすために、学生のアイデア・発想を生かし、これまでにない企画を立てたい。11月の運営委員会ぐらいまでには骨組みを決め、運営委員会で審議してもらい、残りの半年で本格的にやりたい。

・「資料5. その他」について

地方で大会をやるが増える場合に、大都市と同じ形にこだわらず、できる範囲で地方の特色を出せるような大会にできれば。鳥取での実施を今後の地方開催のモデルケースにしたい。また、支部結成の地ならしとして、来年、中国地区のネットワーク、組織化を検討している。

・先日開いた第2回実行委員会を踏まえ、以下の件について、運営委員会の意見を求めたい。

①地方でスタッフ少ないため、ネットワークを広げる。しかし基点となるのは鳥取環境大学。となると、何らかの取り組みが必要であるが、できるだけコンパクトにしたい。

②テーマとシンポジウムについて。テーマがない学会もあるが、テーマを一つに決めるべきなのか。また、シンポジウムは、現在はテーマとセットになっているが、行うべきか。テーマ、シンポジウムの有無はどうか。エクスカージョンはテクニカルツアーを考えている。

←（運営委員会より）これまで、各実行委員会の提案を受ける形で行っていた。大会の内容は、研究発表、プロジェクト研究、総会は必ず行う。会員拡大を考えると、シンポジウムはいい機会となる。地元の人材を生かすという方法もある。

③ 学生の参加について、学生の参加をより増やすために、大会参加費をどの程

度まで割引が可能か。

←（運営委員会より）原則的には、実行委員会で決めてもらっていた。実行委員会の裁量で、会場大学内の学生を減免することはできるが、学会からはできない。採算の問題もあり、学会からの準備金が10万円では厳しいとの意見もある。北海道大会で余剰金が出れば、それを第18回大会にまわすことが可能。

④学会の開催を、鳥取環境大学のPRに活用することに対する了承。

←承認。

10. その他

・広報ガイドラインについて、広報委員会では決定。運営委員会での承認が得られれば、ニュースレターに掲載し、最終報告を出したい。

・ニュースレターの発行計画。選挙管理委員会について、選挙管理委員会が発足してから75号に載せたい。前回にならうと、選挙を1～3月にかけて行なう。本日総会にて委員を決め、委員長から連絡してもらおう。75号に第18回大会の日程と会場を掲載する。

・8月18日の公開シンポジウムの扱いについて

テープ起こしし、リライトの上、学会誌の特集の一部にする、との提案。

→ 愛知県での大会の例からすると可能であるが、論文として掲載する場合は査読の要・不要を検討する必要がある。

・議題6に関して、8名の入会が承認された。

・総会について連絡事項。壇上に運営委員も座ることと、事業報告と計画に関して、委員長からの発言を依頼。

・執筆協力した『こども地球白書』が3刷になったことを報告。

・『ビオシティ』についての報告。運営委員のメンバーに原稿を依頼。またこのような形の原稿執筆を運営委員会の中で、長を決めて出していきたい。

11. 次回運営委員会について

2006年11月11日（土）13:00～17:00（東京）

場所は未定。常任は10日、学芸大。

14:10 閉会